

「歯を守れ！予防歯科に命を懸けた男 日吉歯科診療所・熊谷崇の挑戦」

竹田晋也著 牧野出版

感想文

アイルランド・ヨーク大学

NPO 法人「最先端のむし歯・歯周病予防を要求する会」

西 真紀子

この本は 2016 年 1 月 28 日にテレビ東京の人気番組「カンブリア宮殿」で放送された「予防すれば虫歯ゼロ！ニッポンの歯科を変える歯医者さん」のための 4 ヶ月におよぶ取材に基づいて書かれたそうです。私はアイルランドで DVD を視聴し、現在でも、この番組のことを仕事場に訪れてくる全ての人に知ってもらおうと、机の横の本棚に番組収録時の出演者の写真と、司会の村上龍さんのことばを英訳して飾っています（写真）。それには、自分の歯は生涯守れることを番組によって知り、予防歯科を知らなかったことを悔やむ気持ちがユーモアを交えて語られ、その活動は社会全体に波及すべきだと説得されています。

熊谷崇先生は他にもありとあらゆるテレビの情報番組、新聞・雑誌の医療記事に登場されていますが、その中でも「カンブリア宮殿」はかなり濃密な取材をされたのでしょう。その副産物として読み応えのある本書が生まれました。もっと多くの人たちに日本にはこんな歯科医師がいて、歯科医療にはこんな可能性があって、歯はこんなに大切だということを、より深く掘り下げて伝えてくれることは価値があると思います。

マスコミがこれほど熊谷先生に注目する理由は、飛び抜けた功績によるところはもちろんです。マスコミが求める安心感も与えているからという気がしています。安心感というと革新的な熊谷先生のイメージと相反するように聞こえるかもしれませんが、不特定多数の人々の気持ちを理解して全体像を望むバランス感覚に優れておられるところや、常に弱気を助け強気を挫くという普通の人が描く普通のヒーロー像を体現されているところは、まさに大衆を相手にす

るマスコミに安心な人材だと思うのです。一般常識（歯科界常識ではなく）からかけ離れたり、マニアックで影のあるような王道からの逸脱を感じたことはありません。

そして自由な発想も、奇抜というわけではなく、既成概念に囚われていない的を射た発想です。例えば、この番組が地元で放送されないという矛盾にディレクターである著者も打つ手がない場面で、山形のローカル局の一時間枠を自分で買って解決したという後日談は、熊谷先生らしくて鮮やかでした。時には他の人が理解するのに何年もかかって、後になってからあの時言われていたことは正しかったという声を聞くこともあります。

そのような歯科医師が予防歯科に命を懸けられたことは歯科界にとっての千載一遇の好機なのか、それともそういう歯科医師だからこそ予防歯科に命を懸けられたのか、どちらにせよ、熊谷先生のマスコミへの影響力と柔軟な解決力で、人々の利益を生む予防歯科は障害を乗り越えながら前進してきたと思います。そして現在も予防歯科を企業の福利厚生制度に組み入れたり、クラウドサービスを使って患者への資料をデジタル化したりという新たな発想で王道の前進は続いています。

細かいことですが、本書は一般書で縦書きでありながら‘Oral Physician セミナー’の Oral Physician（口腔内科医）の部分を英語表記にしている点が嬉しかったです。実は、2003年にこのセミナーを立ち上げる時、日吉歯科診療所は既に世界に誇れる素晴らしいアウトカムを出されていたので、裏方のお手伝いをさせていただいた私は、熊谷先生の定義する Oral Physician が国際的にも注目される日が来ることを確信して英語表記を通しました。本書を私の同僚がいるアイルランドやスウェーデンに持っていても、この英語表記を見てもらえれば何が言いたいのかわかってくれるでしょう。熊谷先生のもとには2015年にタイの厚生大臣と大学教授陣が視察に来られたとのこと。酒田がメッカとなって、Dentist から Oral Physician への転換が世界中で起こることを希望しています。

